

病理専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに



本邦の医療における地域格差の問題が焦点となっており、地方における医療圏の充実が求められています。同時に、医療における病理医の役割はますます重要になっていますが、現在、静岡県・中東遠2次医療圏では常勤病理医を有する病院は磐田市立総合病院のみです。そこで、本プログラムでは、地域の実情に応じたきめ細やかな医療を提供する体制を確保するために、医療圏の中核病院である磐田市立総合病院を基幹とした、魅力的で、しかも各専攻医のニーズにあったテーラーメイドプログラムを心がけます。磐田市立総合病院を基幹施設とし、3年間は、浜松医科大学、聖隷浜松病院の専門研修連携施設をローテートして病理専門医資格の取得を目指します。各施設をまとめると症例数は豊富かつ多彩で、剖検数も十分に確保されています。指導医も各施設に揃っており、カンファレンスの場も多く、病理医として成長していくための環境は整っています。本プログラムに是非参加し、知識のみならず技能や態度にも優れたバランスの良い病理専門医を目指してください。

プログラムリーダー 磐田市立総合病院病理診断科 部長 鈴木 潮人

2 目的

現代の医療においては、治療方針を決定するうえで正確で迅速な病理診断が必要であり、そのために十分な数の病理専門医が求められています。本プログラムは初期臨床研修を修了した医師を対象としており、優れた病理専門医を養成し、静岡県内の病院における活躍の場を提供することを目的としています。

3 目標

病理専門医は病理学の総論的知識と各種疾患に対する病理学的理解のもと、医療における病理診断（剖検、手術標本、生検、細胞診）を的確に行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保するとともに患者を正しい治療へと導くことを使命としています。また医療に関連するシステムや法制度を正しく理解し社会的医療ニーズに対応できるような環境作りにも貢献し、さらに人体病理学の研鑽および研究活動を通じて医学・医療の発展に寄与するとともに、国民に対して病理学的観点から疾病予防等の啓発活動にも関与することが必要です。本プログラムではこの目標を遂行するために、病理領域の診断技能のみならず、他職種、特に臨床検査技師や他科医師との連携を重視し、同時に教育者や研究者、あるいは管理者など幅広い進路に対応できる経験と技能を積むことも望まれます。

4 特徴

本プログラムの研修病院群は、すべて静岡県内の施設です。施設の中には地域中核病院と地域中小病院が含まれています。常勤医不在の施設での診断に関しては、テレパソロジーを用いた診断を行っています。地方の医療圏における病理医不足の問題を解決する一つの手法としてテレパソロジーは有効な手段であり、今後、益々その必要性が高まると予想されます。研修プログラムの一環として、これを経験できることは、専攻医にとって良い経験になると思われます。なお、サインアウトは原則的に病理専門医資格取得後に行う行為であるため、診断の報告前に基幹施設の病理専門医がチェックしその指導の下最終報告を行います。

本プログラムでは、連携施設に派遣された際にも月1回以上は基盤施設である磐田市立総合病院において、各種カンファレンスや勉強会に参加することを義務づけています。

5 研修カリキュラム

1) 経験できる症例数と疾患内容

本プログラムでは年間平均10-15例の剖検数があり、迅速診断を含む組織診断も約6,000件あるため、ある程度余裕を持って病理専門医受験に必要な症例数を経験することが可能です。

2) カンファレンスなどの学習機会

各施設におけるカンファレンスのみならず、静岡県全体の病理医を対象とする各種検討会（静岡病理医学会など）や臨床他科とのカンファレンスも用意されています。これらに積極的に出席して、希少例や難解症例にも直接触れていただけるよう配慮しています。

3) 地域医療の経験

病理医不在の連携施設への出張診断（補助）、出張解剖（補助）、迅速診断、標本運搬による診断業務等の経験を積む機会を用意しています。また、診断能力に問題ないとプログラム管理委員会によって判断された専攻医が希望すれば、地域に密着した中小病院へ非常勤として派遣されることも可能です。これにより地域医療の中で病理診断の持つべき意義を理解した上で診断の重要性及び自立して責任を持って行動することを学ぶ機会とします。

4) 学会などの学術活動

3年間の研修期間中に、毎年、病理学会総会と複数の地方会における筆頭演者としての発表を必須としています。そのうえ、発表した内容は出来るだけ国内外の医学雑誌に投稿するよう、指導します。磐田市立総合病院に所属する2名の指導医は共に国費による留学の経験があり、これまでに複数の英語論文を発表しています。こうした経験から、指導医は研究に関する理解があります。磐田市立総合病院だけではなく、関連施設におけるミーティングや抄読会などの研究活動にも専攻医が参加すること、さらに、浜松医科大学の社会人大学院生として基礎研究を行い、学位取得を目指すことも推奨しています。

6 研修例

本プログラムにおいては磐田市立総合病院を基幹施設とします。連携施設については以下のように分類します。

連携施設 1 群：複数の常勤病理専門指導医と豊富な症例を有しており、専攻医が所属し十分な教育を行える施設（浜松医科大学、聖隷浜松病院）

連携施設 2 群：常勤病理指導医がおり、診断の指導を行える施設

連携施設 3 群：病理指導医が常勤していない施設（森町病院）

パターン 1（基本パターン。基幹施設を中心として 1 年間のローテーションを行うプログラム）

1 年目：磐田市立総合病院。剖検（CPC 含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を主な目的とする。大学院進学可能（以後随時）

2 年目：浜松医科大学など 1 群専門研修連携施設。剖検（CPC 含む）とやや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会受講のこと。可能であれば死体解剖資格も取得する。

3 年目：磐田市立総合病院、必要に応じその他の研修施設。剖検（CPC 含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講のこと。

パターン 2（1 群連携施設で専門研修を開始するパターン。2 年目は基幹施設で研修するプログラム）

1 年目：浜松医科大学など 1 群専門研修連携施設。

2 年目：磐田市立総合病院。

3 年目：磐田市立総合病院。

パターン 3（基幹施設で研修を開始し、2、3 年目は連携施設で研修を行うプログラム）

1 年目：磐田市立総合病院。

2 年目：浜松医科大学など 1 群専門研修連携施設。

3 年目：聖隷浜松病院など 1 群専門研修連携施設、必要に応じその他の研修施設。

*備考：施設間ローテーションは、上記 1～3 のパターンでは 1 年間となっていますが、事情により 1 年間で複数の連携施設間で研修することも可能です。

7 研修病院群

- 1) 磐田市立総合病院
- 2) 浜松医科大学医学部附属病院
- 3) 聖隷浜松病院
- 4) 森町病院

8 研修期間

3 年間